

財政金融研究所の活動状況(平成5年3月まで)

1. NBERとの国際コンファレンス

平成5年3月5日に、大蔵省財政金融研究所（IFMP）は、全米経済研究所（NBER）との共催で「世界的資金移動の理論的・経験的分」をテーマとして、国際コンファレンスを開催した。このコンファレンスの概要は以下の通り。

オープニング・リマークス（9：30～9：45）

西村吉正 財政金融研究所長 挨拶

第1セッション（10：00～12：00）

議長：寺西重郎（一橋大学教授）

“資金移動の需要分析 - ソ連・東欧の構造変化とアジア地域の高成長率”

・ Michael Dooley, University of California, Santa Cruz

「世界的な貯蓄投資バランス」

討論者（2名）：岩田一政（東京大学教授）

植田和男（東京大学助教授）

・ 奥田英信 一橋大学経済学部専任講師

「NIEs及びASEAN諸国における国際的資本移動の構造変化」

討論者（2名）：黒柳雅明（日本輸出入銀行開発経済室考査役）

関 志雄（野村総合研究所経済調査部主任研究員）

第2セッション（13：30～15：30）

議長：浜田宏一（イェール大学教授）

“日本からの資金供給の現状と日本の金融自由化の国際資本市場への影響”

・ 高木信二 大阪大学経済学部助教授兼財政金融研究所主任研究官

「日本の長期資本移動 - 最近の構造変化と将来の展望」

討論者（2名）：櫻井 眞（三井海上基礎研究所研究部長）

本田悦郎（大蔵省国際金融局調査課課長補佐）

・ Michael Hutchison, University of California, Santa Cruz

「資金移動と日米の実質金利差について」

討論者（2名）：高橋 亘（日本銀行金融研究所調査役）

福田慎一（一橋大学助教授）

第3セッション（16：00～18：00）

議長：寺西重郎（一橋大学教授）

“資金移動の決定要因についての理論的分析”

・ David Weil, Brown University

「人口構成上の変化と消費・貯蓄行動」

討論者（2名）：深尾京司（一橋大学助教授）
大瀧雅之（青山学院大学助教授）

・浜田宏一 イエール大学教授
桜川昌哉 名古屋市立大学経済学部講師
「資本逃避と債務危機 - 情報の非対称性からの分析」

討論者（2名）：藪下史郎（早稲田大学教授）
Daivid Weil, Brown University

2. 研究会の開催

当研究所では、ワークショップ、ミニコンファレンス等の形式で、行政担当者、大学や民間の研究者、学識経験者などが会合し、中長期的な視野から十分な意見交換をおこなっている。最近の主な開催状況は以下の通り。

(1) アメリカ財政研究会

座長 島田晴雄（慶應義塾大学教授）

平成5年3月22日 第4回

報告者 山村 浩（エッセイ基礎研究所経済調査部長）
平井規之（一橋大学経済研究所教授）

テーマ 米国財政赤字のファイナンス
「破産するアメリカ」(カレロ著)について

平成5年3月31日 第5回

報告者 富士彰夫（東京銀行調査部長）
渋谷博史（東京大学社会科学研究所助教授）

テーマ 金融破綻と財政負担 - S & L 危機への対応を中心として -
アメリカの社会福祉と連邦財政

(2) 官民役割分担研究会

座長 貝塚啓明（東京大学教授）

平成5年3月8日 第9回

報告者 吉野直行（慶應義塾大学教授）
斉藤 健（富士総合研究所専務取締役）

テーマ 効率性と安定性を確保するための行政のあり方
金融秩序と金融システム

平成5年3月18日 第10回

報告者 野口悠紀雄（一橋大学教授）
足立和基（住宅金融公庫副総裁）

テーマ 土地規制のあり方

住宅金融の規制

平成5年3月31日 第11回

報告者 神田秀樹（東京大学助教授）
玉尾豊光（野村総合研究所常務取締役）
テーマ 競争市場と経済法則
証券行政のあり方と日米比較

(3) 資産価格変動のメカニズムとその経済効果に関する研究会

当研究所は、一般に「バブルの発生・崩壊」と呼ばれている80年代後半から現在に至る株式・不動産などの資産価格の急激かつ大幅な上昇・下落が日本経済に及ぼした影響の大きさ等に鑑み、バブルの発生と崩壊の過程に関する検討を行うため、館龍一郎東大名誉教授に座長、この分野に造詣の深い学者に委員を依頼し、昨年9月、「資産価格変動のメカニズムとその経済効果に関する研究会」を発足させた。同研究会は13回にわたる検討を行い、本年4月6日に報告書を発表した。開催実績等は、以下の通り。

平成4年9月18日 第1回

事務局説明・自由討議

平成4年9月29日 第2回

報告者 浅子和美（横浜国立大学助教授）
紺谷典子（日本証券経済研究所主任研究員）
テーマ 株の理論的アプローチ
証券市場の諸問題

平成4年10月6日 第3回

報告者 香西 泰（日本経済研究センター理事長）
鈴木淑夫（野村総合研究所理事長）
テーマ バブルとマクロ経済
バブル経済の発生と崩壊

平成4年10月13日 第4回

報告者 三木繁光（三菱銀行常務取締役）
早川博之（東京銀行海外投資部長）
テーマ 金融機関からみたバブル
ラテンアメリカの債務処理と邦銀の対応

平成4年10月20日 第5回

報告者 野口悠紀雄（一橋大学教授）
植田和男（東京大学助教授）
テーマ 地価のバブルについて
バブルと金融について

平成4年11月6日 第6回

報告者 島野卓爾(学習院大学教授)
後藤新一(さくら総合研究所顧問)
テーマ ドイツの経済運営と日本の経済運営
金融恐慌,証券恐慌との比較

平成4年11月17日 第7回

報告者 長谷川徳之輔(建設経済研究所常務理事)
西岡忠夫(日本生命取締役)
テーマ 地価と土地対策
バブル期とその後の機関投資家の投資姿勢

平成4年11月24日 第8回

報告者 林 敏彦(大阪大学教授)
木村史暁(日本銀行国際局国際金融課長)
テーマ 米国大恐慌と日本のバブルの比較
70年代のイギリスの金融

平成4年12月1日 第9回

報告者 梶田邦孝(日本開発銀行設備投資研究所長)
三國陽夫(三國事務所代表取締役)
テーマ 設備投資動向と実体経済への影響
社債価格付けからみたバブルについて

平成4年12月11日 第10回

報告者 吉川洋(東京大学助教授)
テーマ バブル経済の崩壊について

平成5年1月25日 第11回

自由討議

平成5年2月5日 第12回

自由討議

平成5年3月2日 第13回

自由討議

平成5年4月6日,報告書を発表。

(役職等は開催時のものである)